

第6学年A組 図画工作科学習指導案

授業者 進藤 亨
研究協力者 長瀬 達也
教材分析協力者 石井 宏一

1 題材名 墨から生まれる世界（絵）

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは4年生の「絵の具で遊んで『自分いろいろみ』」の学習で、絵の具を筆で塗るだけでなく、ストローやビー玉、ぼかし網などを用いて様々な表し方をする活動に取り組んだ。それ以降も、表したい感じを表現するために様々な表現方法を用いて作品づくりに取り組んできた。6年生になり、自分が感じた季節のイメージが伝わるような表現方法を考えて、小さな画用紙に描いたところ、春のまだ寒い感じや暖かくなってきた感じ、季節に重ね合わせた自分の気持ちなどを奥行きが感じられる構図や似た色、目立つ色の組み合わせ、形の大小などの「見方・考え方」を働かせて描いていた。その際、水彩絵の具やパステル、貼り絵など、これまでに経験した様々な描画材や表現方法を用いることもできた。また、植物や風景を描いた写実的な表現だけでなく、表したいものを単純化した表現、気持ちや感覚を主にした抽象的な表現なども見られた。

表したいイメージをもち、形や色を組み合わせながら効果的に表現する資質・能力は高まってきている。しかし、自分が表したいことを思い付かなかったり、表したいことがはっきりしないまま活動を進めたりしている子どももいた。また、表したいイメージを効果的に表現するために、どのような表現方法を選択すればよいのかを悩んでしまう子どもの姿もあった。

(2) 題材について

本題材は、墨の濃淡から生じる筋目模様は何に見えるかという見立てから発想し、筋目模様を広げたり、筆以外の用具を用いたりして表現していく活動である。

この活動を通して、**感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付ける力、また、表現に適した方法を組み合わせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する力**を高めることを目指す。

本題材の作品づくりの過程は、墨で自由に描く活動で偶然できた筋目模様を何かに見立てて、表したいことを決める活動、それをもとにして、表したいことを墨で描いていく活動、そして、表したいことをさらに明確にするために、どのような形や模様、色を付け加えていけばよいのかを考えながら、墨の濃淡やかすれ、これまでに習得したスパッタリングやスタンプなどの様々な表現方法を活用して表現していく活動から構成される。

複雑な構図や色を用いない墨での表現は、表したいことがうまく表現できているかどうかを省察しやすい特徴があると考える。個での省察、仲間との省察を生み出し、表したいことをより効果的に伝えるためには、どんな表現方法を付け加えていくかを選択することにも適した題材であると考えられる。

子どもたちが、墨で絵を描ける驚きや楽しさを味わいながら、ねらいとする資質・能力を高めていく姿を期待し、本題材を設定した。

(3) 指導について

表したいことの見通しをもつ段階では、最初に、薄墨で好きな線や形などを遊びながら描く活動を行う。薄墨で描いた後には筋目の模様ができていることを確かめ、伊藤若冲が描いた水墨画（海老図など）を鑑賞する。若冲が描いた水墨画にも筋目模様があり、筋目模様で何を表しているのかを見合う場を設ける。

次に、筋目模様を鳥の羽、龍の鱗など様々なものに見立てて作品づくりをしている「見方・考え方」を用いて、薄墨を使って様々な筋目模様をつくる。そして、何に見えるのか、どんな感じがするのかと見立てながら、表したいことを見付けることができるようにする。見立てから具体的なものを描く子ども、抽象的なイメージを描く子ども、始めから表したいことが決まっている子どもがいると予想される。それぞれのタイプの子どものに応じて支援していくことができるように、タイプ別の参考作品を用意する。

作品づくりの段階では、**筋目模様の見立てと構成に着目し、墨の濃淡やかすれ、筆以外の用具を用いた線や形などを付け加えながら、表したいイメージに近づくようにしていく「見方・考え方」**を大切にしていく。

筋目模様から発想を広げて、どんなものを付け加えると、表したいことがより伝わるのかを省察しながら活動していくことができるように、友達と意見を交流し合う場を設ける。

また、墨の付け加えやこれまでに習得した様々な表現方法を活用し、表したいことをはっきりとさせていくことができるように、様々な表し方を提示したヒントコーナーや試し場の場を設定する。

題材を通して振り返る段階では、「どんなこと（表したいこと）を、どのような表し方で、表現したのか」を視点として示し、表したいイメージと線や形、様々な表現方法をつなげるとともに、どんな力が付いたのかを自覚することができるようにし、次の活動につなげていく。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 墨で表した筋目模様、これまで習得した様々な技法や表現に適した方法を組み合わせ、表したいイメージに近づくように表し方を工夫して表すことができる。 (e-32・33)
- (2) 墨の筋目模様から発想を広げたり、主題を表すための効果的な表現方法を考えたりすることができる。また、自他の表現のよさや美しさ、意図を感じ取り、見方や感じ方を広げることができる。 (d-24) (f-39, 40)
- (3) 墨の線や形、模様、構成の美しさ、表し方のよさに関心をもち、主体的に自分の主題を表現しようとしている。 (a-3)

4 題材の構想 (総時数 5 時間) ※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

季節を感じて

- ・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見付ける
- ・表したいことに合わせて、表し方を工夫する

	時間	学習活動	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
◎本題材の学習活動で働かせる主な「見方・考え方が、筋目模様の見立てと構成に近づくようにしていく。」	1	(1) 伊藤若沖の水墨画を鑑賞する。筋目模様づくりを試しながら、表したいことを見付ける。 ・筋目模様でいろいろなものが表せるな。 ・筋目が〇〇に見える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品づくりの見通しをもつことができるように、筋目模様を用いてどのような表し方をしているのかを確かめる場を設ける。 ・ 様々な形の筋目模様をつくることできるように、墨の濃淡の目安と筆の使い方を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋目模様を基に、感じたこと、想像したこと、伝え合いたいことなどから表したいことを見付ける。 (d-24)
	2 3	(2) 墨の筋目模様で表したいことを描く。 ・筋目模様を使って波の感じを表そう。 ・墨の濃さを変えると、表したいことが引き立つな。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋目模様が引き立つように、濃い墨と薄い墨を用意するように助言する。 ・ 様々な筋目模様から発想が広がるように、鳥の羽、魚の鱗、岩、波などの表し方を示したヒントコーナーを設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋目模様の見立てを働かせて、表したいものの感じが表れるように描いている。 (e-32, 33)
	4 本時	(3) これまでに習得した表現方法を活かしたり、表現に適した組み合わせをしたりして表す。 ・墨のかすれをはけで付け加えた模様で風を表現できるな。 ・赤色のパステルで炎を付け加えると強そうな感じが出るな。 ・マーブリングを使って海の中にいる感じを表そう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで習得した表現方法を用いた表し方を選択することができるように、様々な表し方を提示したヒントコーナーや試しの場を設定する。 ・ 表したいことが伝わる表し方になっているかどうかを省察することができるように、作品の題名と表し方を照らし合わせながら見合うように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表し方を工夫して、主体的に自分の主題を表現しようとしている。 (a-3) ・ 表したいイメージに近づくように、墨で表した筋目模様とこれまで習得した表現方法の組み合わせを工夫して表している。 (d-24) (e-33)
	5	(4) 本題材の学びを振り返る。 ・筋目模様を波に見立てていて美しい。 ・題名の感じがよく伝わる表現になっているなあ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現のよさや美しさ、意図を感じ取ることができるように、表現と題名を合わせて鑑賞するように助言する。 ・ どんな力がついたのかを自覚することができるように、「どんなことを、どのように表したのか」を視点として示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現のよさや美しさ、意図を感じとり、見方や感じ方を広げている。 (f-39, 40)

◎本題材で育む主な資質・能力

感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見付ける力、表現に適した方法を組み合わせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する力
(d-24) (e-33)

スタンドガラスの模様をつくろう

- ・ 白黒で構成する形の面白さ
- ・ 光を通して感じる色の組み合わせのよさや美しさ

5 本時の実際 (4 / 5)

(1) ねらい 表したいイメージに近づくように、形や色、構成の美しさなどに着目して、これまでに習得した様々な技能を活かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりして、表し方を工夫して表すことができる。〈d-24〉〈e-33〉

(2) 展開

○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援
 ※選択・決定を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
5分	① 本時の活動を確かめる。 ・雨が降っている感じを表すために、墨のかすれを付け加えよう。 ・マーブリングを使うと、怪しい雰囲気が表せそう。 ・パステルを使うと柔らかい雨の感じが出せるんだね。 学習課題 表したいイメージに近づくように、どんな用具を使って、どのように表現するのかを考えながら表そう。	・表したいことを効果的に表現することができるように、墨だけで描いた未完成の作品を提示し、どんな画材でどんな表し方を付け加えると、表したいイメージに近付けるかを確かめ合う。
35分	② 自分が表したいイメージが伝わるように表し方を工夫して表す。 ・雨が降っている感じを表したい。どのような表し方で表し方を選ぼうかな。 ・はけで付け加えた墨のかすれ模様で風を表現できるな。 ・赤色のパステルで炎を付け加えると強そうな感じが出るな。 ・マーブリングで青い模様をつけると海の中の感じを出せた。緑色にすると森の中にいる感じも出せるな。 ・表したいことが伝わる表現になっているかな。〇〇さんに聞いてみよう。	○自分の表したいことを効果的に表現できているかどうかを省察しながら作品づくりができるように、始めに、お互いの作品を題名と照らし合わせて見合う場を設ける。 ※表したいイメージに合った表現方法を選択することができるように、墨の濃淡やかすれ、筆以外を用いた表し方や参考作品を掲示したヒントコーナーと試しの場を設定する。 ・イメージに合う表し方が見つからずに困っている子どもには、イメージに合いそうな表し方や参考になる表し方をしている子どもを紹介し、表し方を選択できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 表したいイメージに近づくように、形や色、構成の美しさなどに着目して、墨の濃淡やかすれ、パステルでのぼかしや水彩絵の具でのにじみなどを活用して表している。 〈d-24〉〈e-33〉(活動・表現) </div>
5分	③ 本時の活動を振り返る。 ・雨が降っている感じをパステルを使って表すことができた。 ・スプレーとスタンプの組み合わせで、海と泡の感じを表現できた。 ・〇〇さんの表し方を使えば、表したい感じがもっと伝わったかもしれない。 ・墨でのかすれの表現は、風を表すときにも使えるな。	○表したいことを効果的に表現できているかどうかを振り返ることができるように、「どんなイメージをどのように表したのか、なぜそのようにしたのか」を視点として示す。